

<開館15周年記念特集号>

◇質のよいものをより多くの人々に一開館15周年を迎えて一

◇“楽”に志す

◇15周年によせて

◇企画展「古代の役所と地域社会」によせて

◇報告:横浜開港150周年記念ツアー

◇<知ってますか?>どこか変わった?

横浜市 歴史博物館 NEWS 29 2010・1



質のよいものをより多くの人々に

— 開館一五周年を迎えて —

横浜市歴史博物館館長

高村 直助

横浜市歴史博物館は、一九九五（平成七）年「横浜に生きた人々の生活の歴史」をテーマにオープンしましたが、本年一月に開館一五周年を迎えます。

平野邦雄館長の後を引き継いで私が二代目館長に就任して半年が過ぎ、開館一〇周年記念の催しの準備に取り組んでいた頃でしたが、月刊誌『日本歴史』二〇〇五年一月号（第六八〇号）が、「博物館と日本史」特集号として刊行されました。

そこには「私の選ぶ図録・展示」という、七〇人の歴史家の方たちへのアンケート結果が掲載されていたのですが、各氏が二、三点ずつ挙げていた企画展に、当館のものがしばしば取り上げられていることに気づきました。東京国立博物館や国立歴史民俗博物館が数多いのは当然予想されたことですが、当館と兄弟館である横浜開港資料館とを合わせると、なんとそれら国立博物館に匹敵する頻度で取り上げられていたのです。

かねて当館は全国の公立歴史博物館のお手本でありたいと思っていましたので、大

変うれしく思いましたが、同時にこの高い評価を私の館長の時代に台無しにしてはならないという、重い責任を感じました。

館長になったのときを合わせるかのように、時代の波と申しますか、毎年のように新たな外部条件に直面することになりました。市との特定協約や指定管理者制度の導入などがそれで、より少ない予算で市民サービスを上向きさせることが、強く求められるようになりました。

それに対応すべく、内部においては、質が量かどちらを優先すべきかといった議論も生じました。しかし私は、どちらをとるかという問題の立て方ではなく、「質のよいものをより多くの人々に見ていただく」というのが正しいと思ひ、館員とともに諸事業を進めてきたつもりです。

企画展の内容が、基本的には担当学芸員の地道な長年の調査研究にまつことはいくまでもありませんが、さてどういうタイトルを付け、資料の配列や説明文はどういう風にするのがよいか、関連事業や広報はなど、見る人、参加する人の視線を意識して、

現場の知恵を集めてそれなりの工夫を重ねてきました。

また、周年記念の感謝デーなど様々な催しや体験学習の豊富化なども、ボランティアの方々との御協力拡充にも支えられて実施し、さらに事業ごとに参加者にアンケートをお願いし、反応を確かめるとともに改善点の発見に努めてきました。予定通りに運ばなかった部分もありますが、指定管理者になるに際して打ち出した具体的目標は、おおむねは達成できると考えています。

開館一五周年を迎えた本年、当館は第二期指定管理者の募集に手を挙げなければなりません。また、次なる二〇周年までには、近年の研究成果を盛り込んだ常設展のリニューアルという懸案も、ぜひとも達成したいと考えています。節目の年に当たり、気持ちを新たに「質のよいものをより多くの人々に」という原点に立ち返りつつ進んでゆきたいと考えています。

どうか引き続きご支援ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



「樂」に志す

横浜市歴史博物館副館長

金子 宣治

だいぶ前のこと、市営地下鉄センター北駅から博物館の全貌が望めたころ、家族で当館に遊びに来たことがあります。子供たちが中学生だったので、今から一〇数年前、開館直後だったかもしれません。家族総出で出かけることの少ない我が家の貴重な思い出です。

その、横浜市歴史博物館に、昨年四月、副館長として就任しました。とても不思議な縁を感じましたが、当館に採用が決まって以来、私は、

- ①市民に身近な、親しまれる博物館
- ②お出かけ博物館
- ③市民協働
- ④お客様の満足度の向上



などの視点からの積極的な取り組みを思い描いていました。

ところが、です。就任していき動き始めてみると、当博物館が、よくやっていることが分かってきました。企画展を年間五〜六回開催し、また常設展見学等のために、校長OBのエデュケーターを中心として四〇〇校超の小・中学校の誘客に努めているほか、博物館を身近にするために、普段は見られないバックヤードの見学ツアーや、毎月最終土曜日に火起こしなどを体験するプログラム、さらには、クラシックコンサート(年二回)や感謝祭の開催など様々な取り組みを進めているのです。

また、地域にお出かけする取り組みとして、小学生を対象とした「出張土器づくり教室」や「出前授業」などを実施し、さらに、ボランティアの方々に、隣接する遺跡公園などの解説や学校など団体来館時の対応にご協力いただくなど、市民協働にも取り組んでいます。

なかでも、「土器づくり」、「火起こし」や「古代人の体験」、「竪穴住居に泊まろう」など主に小学生を対象とした体験型イベントは、子どもたちにとって忘れがたい思い出になるとともに、将来の博物館への回帰につながる大切な取組みで、成人を対象とした「古代史講読講座」や「古文書解読講座」とあわせ、大変有意義なものです。また、これら講座受講者やボランティアのOBの会も設けられ、博物館を基盤とした生涯学習の広がりもできています。

これら様々な取り組みの結果として、毎年、延べ約三〇万人のお客様にご利用いただいております。また、これらをご利用いただき、私たちがたいことですが、お客様のニーズにお応えしているのか、お客様に真にお客様のニーズにお応えしているのか、お楽しみにただけているのか、ご満足いただけているのか、という点が最大の関心事です。幸い(回収率は数%ですが)アンケートにお答えをいただいているので、これらが参考になります。

アンケートを見ますと、企画展は、毎回およそ四割以上の方から「大変満足した」との回答をいただいております。限りますが、一方、①快適な観覧環境の保持、②バリアフリー対応、③一般市民を対象にした分かり易い展示の企画、④地図や年代

表記の工夫、⑤質問受け付けサービス、⑥来館者を増やす努力など、より充実した展示、観覧に向けたご要望・ご意見をいただいております。これらにつきましては、従来より心がけてきてはいますが、館員一丸となつてさらに努力して行きたいと考えています。

一方、常設展示は一五年前のものであり、リニューアルが必要になっていきますが、これは(設置者の横浜市との協議が必要であり)、今後の、しかし喫緊の課題と考えています。

私どもといたしましては、これらのご意見や現状等を踏まえ、今後とも、お客様満足度の一層の向上に努めて参りたいと考えています。

孔子は「我、十有五にして学に志す」(論語)といっています。孔子の「学」ではありませんが、当館も、開館一五周年を契機として、専門性を十分生かしつつも、あらためて「樂」に志し、二〇周年、三〇周年に向け、多くのお客様にお出かけいただければ、かつ、お楽しみいただける博物館を目指して参ります。



横浜市歴史博物館が一五周年を迎えましたことを、関係の皆様とともにお慶び申し上げます。これまで地域、職員、関係の皆様の協力のもと、横浜市の中核的な博物館として市民の皆様に関し

平成七年に開館しましたが、港北ニュータウン計画地に建設された当時は、周囲の建物も殆どない状況でした。現在は、マンションが隣接地に建設されるなど当時とは隔世の感があります。さら

に遡つて 横浜の歴史を長い目で眺めてみますと、古代から中世近世へと大きく移り変わってきました。

市民の皆さんがその長い歴史と文化を振り返り、理解を深めていただきながら、自分たちの郷土に愛着と誇りを強く感じとってもらえる場として活用していただければと思います。

これからも市民の皆様をはじめ多くの方々に愛される博物館として、一層飛躍していくことを祈念して私のあいさついたします。



昔で言えば男子元服の年、横浜市歴史博物館（以下、横浜市博）が、開館一五周年を迎えられ、まずは心よりお祝い申し上げます。

昨今、博物館を取り巻く環境は厳しいものと聞きます。横浜市博も指定管理者制度を二〇〇六年に導入されました。

日頃、横浜市博に行く機会の多い私ですが、学芸員や職員の方がたのボランティアアへのご指導博物館行事へのご熱心な取り組みをよく目にします。お世話になっている横浜市博に、市民サイドからお手伝いできることはないだろうか、そんな声が周囲からも聞かれました。

そこで、横浜市博主催の講座、研究会のOB会、四団体に声をかけて生まれたのが、「横浜市歴史博物館関連団体連絡会」です。昨年は三月のことでした。

四団体九人と横浜市博からもオブザーバーとして参加して頂き、三ヶ月に一度、情報交換、忌憚なく本音で発言できる意見交換の場を設けています。これは市民へ開かれた博物館に繋がるステップになるのだとも思います。

帆船、「横浜市博関連団体丸」はまだ帆を揚げたばかりです。

いわば、市民自らの意思で立ち上げたこの会が、近い将来、横浜
市博との共催事業、協働事業についてもスムーズな運営を図る一助
になればと願っております。



大塚・歳勝土遺跡公園ガイドボランティア 牧 豊太郎



私達ガイドボランティア五四名は、国史跡「大塚・歳勝土遺跡」のご案内をしています。ご案内のお申し込みを受け遺跡へ。最初は堅穴住居。狭い入口から薄暗い穴へ腰をかがめて一本梯子で入ると、そこはもう二千年前の世界・くらしの真ん中です。驚きの声が聞こえます。倉庫、環濠と進むと心なしか皆様の表情が変わってきます。お墓で終わって「勉強になった」「すばらしい」「よく考えて生きていたんですね」など沢山の感想がよせられます。

また、一〇年前から市内小学校児童の学習が続いており、今年も三二校の六年生（二万人以上）の参加がありました。最初の堅穴住居では大騒ぎですが、倉庫・環濠と進むと今の生活と比較しているのかそんな質問がきます。最後のお墓では全員黙り込んでしまいます。しかし、「ありがとうございました」のご挨拶は大元氣。いいものを見たという喜びが感じられます。ここで学習した青少年の層が横浜に毎年積み重ねられて行くのは、大変有意義な事ではないでしょうか。「大塚・歳勝土遺跡」は本当に優れた遺跡・歴史体感の場です。開館一五周年を機にもう一步勉強をすすめ、皆様のより良い学習に役立つよう努力してみたいと思います。

国際警備株式会社 横浜市歴史博物館警備員一同



開館一五周年を迎えられて心からお祝い申し上げます。当社は開館当初から警備に従事してまいりましたが、メンバーも入れ替わり、現メンバー旧きは六年、新しきは一年、総勢六名体制で警備にあたっております。

当博物館の警備にあたって、私どもの心構えは、①マニュアルに沿って基本に忠実であること、②警備のプロを意識して職務を誠実に遂行すること、③当館は文化財等多数収蔵され、また破損しやすい物も多数陳列されているので、火災や盗難等の予防と併せて、細心の注意を払って警備巡回にあたること、であります。

勤務中で思い出に残ることといえば、ある台風の夜、遺跡センサーの発報で雨の中出動したことや、屋上でカルガモの親子がカラスにねらわれていたとき、関係者総出で誘導にあたったこと、等々。その他諸々ありますが、幸いにも博物館の根幹にかかわるトラブルが一件も発生していないことに、安堵するしだいです。

横浜市歴史博物館の益々の発展を祈念いたしますとともに、警備員一同社会のルールを守り一致協力して警備にあたり、皆様から（へ）より（!!）の評価を頂くよう努め、発展の支えになりたいと思います。

案内係 株式会社コングレ 鈴木 美緒



開館一五周年、おめでとうございます。私たち受付は、チケットの販売や改札、総合案内など、館内で接客の仕事を担当しています。お客様と一番触れ合うことの多い仕事ですので、来館してくださった方に気持ち良く、楽しく見学していただけるよう、笑顔と真心の接客を心がけております。

また、より見学しやすい博物館となるよう、お客様から寄せられる貴重なご意見を館の方にお伝えし、反映されるよう努めております。

博物館には、毎日小さなお子様からご年配の方まで様々な方が来館されます。その中には、何度も足を運んでくださるリピーターの方や、私たち受付との会話を楽しんでくださる方も多く、そういった方々が「楽しかったです!」と言って笑顔でお帰りくださると、こちらまで嬉しくなります。

これからも、多くの方々に支えられ、親しまれる博物館の「かお」として受付一同笑顔でお客様をお迎えして参ります。

またのお越しを心よりお待ちしております。

中央監視室 株式会社キョーエーヨコハマ 牧野 栄三



横浜市歴史博物館が、開館以来一五周年（正確には、開館半年前からです）当社で、設備管理及び日常清掃をさせていただいております。私が当館にきて、一〇年目を迎えておりますが、最初の頃は温度、湿度管理が非常にこまかいことに驚かされました。一般系統（展示室等）は、ビル管理法の範囲内に維持されていけばよいのですが、二四時間系統（収蔵庫及び企画展示室）は、年間をとおして、一定の温度・湿度でなければいけませんので、夏の高湿多湿の季節、冬の低温乾燥時期、また、その季節の変わり目の時期は、なかなか思いどおり（設定温度・湿度）に維持してくれないので、苦労が絶えませんでした。

また、四月から七月にかけては、小学校の見学者が多く、展示室が、いつきに混み合い室温が急に上昇したり、帰った後は、いつきに室温が下がったりするので、監視カメラ、制御盤から目が離せない状況です。（二応、温度・湿度共、自動にはなっていますが、反応が間に合わない）

さらに、年々光熱費の節約のため、空調機の設定温度の変更やタイムスケジュールの変更等で少しずつではありますが、節約の努力をしております。

今後とも来館者の方々には、快適に見学していただき、収蔵庫は、決められた温度・湿度を年間をとおして維持できるように、設備担当、清掃担当共に頑張っております。

一五周年、誠におめでとうございます。

開館15周年
記念特別展

古代の役所と地域社会

誕生！古代よこはまの郡家

によせて



武蔵国都筑郡家想定復元模型 手前の建物群が正倉、右奥が郡庁

日本の古代国家は律（刑罰法）と令（行政法）という法に基づく律令国家として成立し、大宝元年（七〇二）に制定された大宝律令により国郡制が実施され、全国は国（現在の県にたとえることができます）と郡（現在の市にたとえられます）に編成されました。国には国府、郡には郡家という役所が設置され、都から派遣された国司、地域の首長（リーダー）が任じられた郡司という役人が地域の支配を遂行したのです。

国・国司には一国のあらゆる行政機能が集中しましたが、その前提には各地域を掌握する郡・郡司の存在があったのです。地域社会の支配の核になったのは郡であり、郡家はその中心施設でした。横浜地域の大部分は、武蔵国の都筑郡と久良郡に該当し、青葉区の長者原遺跡は都筑郡の郡家の遺跡です。

郡の役所である郡家は、政務や儀式の場である郡庁、徴収した各種の税を保管する倉庫群である正倉、役所で働く人々に食事を提供する給食施設である厨、郡家にやってくる国司や様々な使者の宿泊施設である館の四ブロックが構成要素でした。そこには、大領、少領、主政、主帳という四ランクで構成される郡司が置かれました。これらには地域のリーダーが任じられましたが、これ以外にも様々な業務を遂行するための地域の担当者が郡家で働いていたのです。

地域の支配の拠点である郡家は、人々を把握する「戸籍」や「計帳」をはじめとする各種の行政文書を作成する

ための基礎作業、調や庸などの税の収集の実務作業、稲の強制貸付である出挙の貸付と収納業務、各種の祭祀や仏教儀礼の執行など、多様な機能を果たしていたのです。展覧会では、こうした郡家の構造やそこで働く人々の様相、郡家が果たした多様な役割を各地の発掘成果などをふまえて紹介していきます。

一方、こうした郡・郡家はどのようにして成立したのでしょうか。郡の前身は七世紀中頃に組織された「評」でした。「評」は、古墳時代からの地域秩序を再編成してつくられました。「評」には郡家の前身となる役所が置かれ、地域の人々を「五十戸」へと編成し、新たな支配をはじめたのです。

展覧会では、木簡などの出土した文字資料を中心に、「評」の成立や人々が編成される過程も探ります。同時に、横浜地域北部にあたる武蔵国都筑郡をフィールドとして、古墳時代からの地域社会の展開の中で、どのように「評」・郡が出来上がっていくのかを探ります。すなわち、後の都筑郡の範囲では、六世紀の半ば以降、市ヶ尾古墳群、新治古墳群、荏田古墳群、鴨居古墳群など複数の古墳群の展開がみられ、各古墳群では七世紀半ば以降には横穴墓が造られていきます。こうした古墳群の展開と地域社会における役所の誕生との関係を考えてみます。

横浜地域の事例に基づきながら、古代国家の地域支配の様相とその成立過程に関する理解を深めていただければ幸いです。

（平野卓治）

報告 横浜開港一五〇周年記念ツアー



湊稲荷神社願懸け高麗犬見学のようす
新潟ツアーの一コマです。新潟市歴史博物館伊東先生から、湊の遊女たちが馴染みの船乗りの船が出帆しないよう願をかけたという願懸け高麗犬の解説を受け、参加者は興味津々でした。

横浜開港一五〇周年を迎えた二〇〇九年、当館では初めてとなる開港場を訪ねる宿泊ツアーを企画しました。宿泊ツアーは日帰りに比べて費用がかかり、ある程度の申し込みがないと実施に至りません。昨今の激安ツアーの価格を考えると、高価でも当館独自の行程に魅力を感じてもらえるか、申し込みはあるのか、といった不安が

頭をよぎります。そのような中でプランを練り始めました。

初回は二〇〇九年二月一九・二〇日、伊豆半島を目的地に計画しました。伊豆半島には開国・開港にまつわる史跡や文化財が点在し、なかでも下田は日米和親条約（神奈川条約）により横浜に先立って開港したところです。二月には早咲きで有名な河津桜も見学できます。日帰りは難しく、見学先は多様で、充実した行程が組める、初めての宿泊ツアーには適地といえました。手配を依頼した旅行会社に無理をいい、はじき出した参加費は、往復が貸切バス、宿泊が男女別の相部屋、一泊四食と見学費・交通費を含めて二九八〇〇円という金額でした。「早春の伊豆半島——開港前夜の港町伊豆下田と河津桜を訪ねて」と名付けたツアーには、二七人から申し込みがありました。

当日はまず韮山に向かい、幕末の海防政策に大きな役

割を果たした江川太郎左衛門英龍の資料が残る江川邸や反射炉を見学。その後は日本で初めて洋式帆船を建造した戸田、伊豆の長八美術館やなまこ壁の街並みのある松崎を訪ね、夜は弓ヶ浜温泉に宿泊しました。相部屋で過ごした一夜はまるで「大人の修学旅行」。さすがに枕投げはしませんでした。夜遅くまで話に花が咲きました。翌日は石廊崎から貸切船で下田に向かう予定でしたが荒天で船が欠航。代わりにバスで移動し、黒船を模した船で下田港内を遊覧しました。その後は下田開国博物館を見学し、雨が上がつた下田の街を博物館の方の案内で散策。下田の史跡を十分に堪能し、最後は朝の荒天が嘘のような青空の下で、満開の河津桜を楽しみました。

二回目は開港記念日の翌日にあたる六月三日から二日間、安政五カ国条約によって開港した五港（神奈川・兵庫・函館・長崎・新潟）の一つ新潟を目的地にしました。新潟の日本海沿岸には、開港場新潟をはじめ廻船の湊として栄えた町が点在し、江戸時代から近代にかけての海上交通に関わる史跡や文化財が残ります。さらに横浜開港にまつわるコレクションを所蔵する黒船館が柏崎にあります。またまた旅行会社に無理をお願いし、はじき出した参加費は、往復が新幹線、宿泊がビジネスホテル、食事を一切含まず、シングルルーム利用で二四〇〇〇円でした。「開港場新潟と北前船の湊を訪ねて」と名付けたツアーには、二七人の申し込みいただきました。

当日は東京駅発の新幹線車中で集合し、新潟をめざしました。新潟ではまず、国内に唯一残る開港当時の運上所、旧新潟税関庁舎（重要文化財）が保存されている新潟市歴史博物館を見学しました。午後は博物館の方の案内で市内を散策。湊稲荷神社願懸け高麗犬、金刀比羅神社奉納模型和船（重要有形民俗文化財）などを見学し、最後は貸切船に乗船して信濃川から街の眺めを楽しみました。翌日は、新潟の鎮守白山神社で新潟湊の繁栄ぶりを描いた船絵馬を見学し、その後は日本海沿いに貸切バスを走らせ、越後国一宮の弥彦神社と弥彦山、北国街道の宿場で湊でもあった寺泊や出雲崎を散策し、最後に黒船館を訪ねました。

おかげさまで二回のツアーは無事を実施できました。学芸員の不慣れな添乗、盛りだくさんの行程など反省点はありますが、参加者からは面白かったという温かい言葉を頂くことができました。

開港一五〇周年は終わりましたが、未踏の開港場に函館・兵庫・長崎があります。開港場制覇という夢を掲げ、このようなツアーが今後も計画できればと思います。実施の際は、皆様方のご参加をお待ちしております。

（刈田 均）

これからの催しもの

- ◎企画展「考古学ってなに?」(仮題)4月10日(土)~5月23日(日)
- ◎企画展「古墳時代の地域開発」(仮題)6月5日(土)~7月11日(日)

表紙写真は

博物館正面いまむかし
上が開館時(1995年)、下が今年(2009年)撮影した、博物館正面の写真です。博物館周囲の景観が、15年の間に劇的に変化しているのわかります。さらに15年後、この風景はどのように変わっているのでしょうか。

??????? 知ってますか ???????

どこか変わった?

今、博物館の上部は工事用シートにおおわれていて、その全容をみることはできません。開館から15年がたち、建物もだんだん年を重ねてきて、あちらこちらで不具合ができています。みなさんに快適にお過ごしいただくため、普段から保守点検を行い、小さな修理はしてきましたが、今回はおおがかりな修理となりました。

遠くからでも博物館の存在がすぐにわかる、特徴的な緑色の三角屋根と、外側の壁面タイルの張り替え工事です。春になるころには緑色が鮮やかによみがえった真新しい三角屋根がおめえします。ただし、今回の修理で三角屋根は少しだけその形がかわります。みなさんおわかりになりますか? いったいどこが変わったか探してみてください。(さすがに金の鯨鯨や鬼がわらはのりませんが…)

PREZENT 読者プレゼント

いつも博物館ニュースをお読みいただきありがとうございます。ニュースに関する感想やご意見をお寄せください。お寄せいただいた方のうち5人の方に博物館オリジナルグッズをさしあげます。はがきもしくはFAXで、お名前、ご住所、年齢、このニュースを手にしたところ、ニュースについての感想、要望をお書きのうえ、平成21年3月31日までに博物館「読者プレゼント係」までお送りください。当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



横浜市歴史博物館 日誌

二〇〇九年六月一日~二月三十一日

- 6月3日~4日 開港150周年企画バスツアー「開港場新堀と北前船の漕ぎをたづねて」
- 6月6~7日 開港150周年記念フェスタ
- 6月13日 企画展開港フロアレクチャー
- 6月20日 企画展開港研究講座「絵地図・鳥瞰図にみる開港場・横浜」
- 6月20~21日 体験学習「小田原ようちん」
- 6月27日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】・火起こし」
- 6月28日 企画展開港フロアレクチャー
- 7月2日 ふるさと横浜探検「横浜開港150周年記念 横浜事始め 神奈川宿から開港場へ」
- 7月4日 エントランスホールコンサート「名曲コンサート 一横浜開港150年を記念して」
- 7月5日 企画展開港研究講座「東海道神奈川宿から横浜へ」
- 7月9日 「横浜絵はがき」ミニ展示(8月14日まで)
- 巡回資料展「4区のチェンジ大発展 港北区・緑区・青葉区・都筑区」(7月26日まで)
- 体験学習室ミニ展示「江戸の旗・明治の旗」(11月27日まで)
- 7月14日 収蔵資料ミニ展示「武蔵国橋本郡今井村・高野家文書」(7月20日まで)
- 7月18日 横浜開港150周年記念Part2「瓦版・絵巻にみるペリー来航と横浜開港」開催(8月30日まで)
- 7月19日 巡回資料展解説
- 7月20日 収蔵資料ミニ展示解説
- 7月25日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」
- 7月26日 巡回資料展解説
- 7月28~29日 体験学習「土偶づくり」
- 7月31日 体験学習「勾玉づくり」
- 8月1日 企画展開港講演会「横浜絵はがきを読み解く」
- 8月2~9・16~23日 夏休み博物館たんけん隊
- 8月4日 体験学習「縄文ガジェットづくり」
- 8月6~7日 体験学習「そのもの(万祝染)」
- 8月8日 企画展開港フロアレクチャー
- 8月11日 収蔵資料ミニ展示「YES89 横浜博覧会関連資料」(8月16日まで)
- 体験学習「まゆ組」
- 8月12日 体験学習「かざぐるまづくり」
- 8月15日 横浜・マリノス展(8月30日まで)
- 8月16日 収蔵資料ミニ展示解説
- 8月20~21日 体験学習「勾玉づくり」
- 8月22日 野焼き
- 企画展開港フロアレクチャー
- ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」
- 8月30日 企画展開港フロアレクチャー
- 9月8日 収蔵資料ミニ展示「『曾我物語絵巻』とその他本類」(9月13日まで)
- 9月12日 都筑・青葉区150年・横浜開港150周年記念 収蔵資料展「都筑・青葉の生活と歴史」開催(10月4日まで)
- 9月13日 収蔵資料ミニ展示解説
- 9月19日~20日 壁穴住居に泊まる
- 9月20日 収蔵資料展開港研究講座「江戸時代の都筑郡」
- 9月22日 収蔵資料展開港フロアレクチャー
- 9月22~23日 体験学習「土偶づくり」
- 9月26日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近代】」
- 9月27日 収蔵資料展開港研究講座「環境とくらしの変化ー近代の都筑区を中心にー」
- 10月2日 古文書読解教室「初めての古文書」(12月4日まで全10回)
- 10月3日 収蔵資料展開港フロアレクチャー
- 10月11~12日 都筑アートプロジェクト2009 ニュータウンビクニックー道徳をめぐるアート「アートフェスタ」
- 10月17日 横浜開港150周年記念特別展「陸の道と海の道の交差点 江戸時代の神奈川」開催(11月29日まで)
- 10月18日 特別展開港フロアレクチャー
- 10月20日 横浜郷土史団体連絡協議会所属団体の紹介パネル展示(11月1日まで)
- 都筑アートプロジェクト2009 ニュータウンビクニックー道徳をめぐるアート「アート展」(11月7日まで)
- 10月24日 特別展開港研究講座「政治拠点としての神奈川」
- ふるさと横浜探検「鶴見川と寺家の里山を訪ねて」
- 10月31日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」
- 11月1日 特別展開港フォーラム「神奈川から横浜へ」
- 11月7日 特別展開港フロアレクチャー
- 11月8日 特別展開港講演会「大熊弁玉ー神奈川に弁玉といはれし僧ありてー」
- 11月14~15日 体験学習「そうり組み」
- 11月15日 特別展開港研究講座「津町としての神奈川」
- 11月19日 ふるさと横浜探検「横浜開港150周年記念 開港・開港ゆかりの浦賀周辺の歴史散歩」
- 11月21日 特別展開港フロアレクチャー
- 11月22日 特別展開港講話「御神酒徳利」ほか
- 11月28日 体験学習室ミニ展示「ちよと昔を探してみよう」(3月31日まで)
- 特別展開港紙芝居
- ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」
- 11月29日 特別展開港研究講座「津町としての神奈川」
- 12月5日 エントランスホールコンサート「アンサンブル・ライン クリスマスコンサート」
- 12月12日 「横浜の考古資料展ー館蔵の市指定文化財からー」
- 「横浜の道徳展 再現弥生集落・古代道徳ー北川表の上遺跡の調査成果からー」開催(11月11日まで)
- 12月12~13日 体験学習「風づくり」
- 12月19日 企画展開港講演会「科学の力で古代を探るー北川表の上遺跡の発掘成果と化学分析ー」
- 12月20日 企画展開港フロアレクチャー
- 12月26日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】」

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

編集後記

開館一五周年記念特集号をお届けいたします。博物館はこれからも、支えてくださる多くの方々とともに、より充実した活動を続けてまいります。今後ともどうぞよろしく願いたします。

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
都筑民家園
毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「演ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(1時間200円)

●インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

